

福島第一原子力発電所

2026年度第1回ALPS処理水海洋放出の完了

< 参 考 資 料 >
2026年4月20日
東京電力ホールディングス株式会社
福島第一廃炉推進カンパニー

- 当社は、2026年度第1回のALPS処理水海洋放出を、4月2日午前11時32分から実施しています。
- 放出期間中は、ALPS処理水（トリチウム）の希釈が適切に行われているか毎日確認することを目的に、海水で希釈後の水のトリチウム濃度を分析し、トリチウム濃度が計算上の濃度と同程度であることおよび1,500ベクレル/ℓ未満であることを確認しています。
- 発電所から3km以内の10地点および発電所正面の10km四方内の4地点においては、海水のトリチウム濃度の分析結果を迅速に得ることを目的に、検出限界値を10ベクレル/ℓ程度に上げた分析を実施し、トリチウム濃度が放出停止判断レベル（700ベクレル/ℓ^{※1}または30ベクレル/ℓ^{※2}）および調査レベル（350ベクレル/ℓ^{※1}または20ベクレル/ℓ^{※2}）以下であることを確認しています。

※1 発電所から3km以内の10地点 ※2 発電所正面の10km四方内の4地点 <2026年4月19日までにお知らせ済み>

- 2026年度第1回のALPS処理水海洋放出は、約460m³/日の放出量で安定的に推移し、海水中のトリチウム濃度についても、当社が実施する迅速な分析の結果等から、計画的に安全に行われていることを確認しています。
- 測定・確認用設備A群からのALPS処理水の移送が、4月19日午後4時14分に終了し、ALPS処理水移送ラインの配管内に残っている水（ALPS処理水）の、ろ過水による押し流しが、4月20日午後0時6分に終了したことをもって、2026年度第1回のALPS処理水海洋放出が完了しました（総放出水量：7,865m³、トリチウム総量：約1.9兆ベクレル）。
- 引き続き、ALPS処理水の安全な海洋放出を安定的に実施できるよう、緊張感を持って取り組んでまいります。

[参考] 2026年度ALPS処理水放出計画 (1/2)

- 2026年度の放出計画は以下の通り、年間放出回数8回、年間放出水量約62,400m³、年間放出トリチウム量約11兆ベクレルを計画。なお、年間放出トリチウム量は移送元タンク群での分析値と測定・確認用タンク群での分析値の違いによる影響等のため、計画値と実績値に若干の違いが生じる場合がある。

管理番号※1	移送元タンク※2	移送量※3	放出開始時期 (放出量)
26-1-19	H2エリアJ群 (測定・確認用設備 A群に移送)	: 約7,390m ³	4月 (7,800m ³)
	H1東エリアC群 (測定・確認用設備 A群に移送)	: 約390m ³	
26-2-20	H1東エリアC群 (測定・確認用設備 B群に移送)	: 約7,800m ³	5~6月 (7,800m ³)
26-3-21	H1東エリアC群 (測定・確認用設備 A群に移送)	: 約3,700m ³	6~7月 (7,800m ³)
	H1東エリアA/B群 (測定・確認用設備 A群に移送)	: 約4,100m ³	
26-4-22	H1東エリアA/B群 (測定・確認用設備 C群に移送)	: 約7,800m ³	7~8月 (7,800m ³)

次スライドへ

※1 管理番号は年度-年度毎の放出回数-通算放出回数の順で数を並べたもの。「26-1-19」は26年度第1回放出かつ通算第19回放出を表す。

※2 移送量(実績値)の増減により、移送元タンクの移送順序は変わらないが、放出回は前倒しもしくは後ろ倒しとなる可能性あり。 ※3 下線部は実績値を示す。

※4 ALPSで処理し、タンク貯留後に測定した、主要7核種(Cs-134, Cs-137, Sr-90, I-129, Co-60, Sb-125, Ru-106)の分析値から算出した告示濃度比にC-14の最大値(0.11)または分析値およびその他核種の合計を0.3と推定したものを加えた、保守的な値。H1東-A, B, C, H2-Bについては主要7核種の分析値から算出した告示濃度比に、C-14の最大値(0.11)または分析値、およびその他核種の分析値(タンク群毎に個々のタンクから採水し、それらを混合した試料を分析した値)を加えた値。

※5 タンク群平均、2026年4月1日時点までの減衰を考慮した評価値

[参考] 2026年度ALPS処理水放出計画 (2/2)

管理番号※1	移送元タンク※2	前スライドより		二次処理	告示濃度比総和	トリチウム濃度	トリチウム総量	放出開始時期 (放出量)
		移送元	移送量					
26-5-23	H1東エリアA/B群 (測定・確認用設備 B群に移送)		約4,800m ³	無	0.32~0.84 ※3	16万~17万ベクレル/リットル ※4	1.3兆ベクレル	8~9月 (7,800m ³)
	H2エリアB群 (測定・確認用設備 B群に移送)		約3,000m ³					
26-6-24	H2エリアB群 (測定・確認用設備 A群に移送)		約6,200m ³	無	0.32~0.84 ※3	15万~19万ベクレル/リットル ※4	1.3兆ベクレル	9~10月 (7,800m ³)
	K1エリアC/D群 (測定・確認用設備 A群に移送)		約1,600m ³					
26-7-25	K1エリアC/D群 (測定・確認用設備 C群に移送)		約7,800m ³	無	0.35~0.40 ※3	19万ベクレル/リットル ※4	1.5兆ベクレル	10~11月 (7,800m ³)
点検停止 (測定・確認用設備 A群タンクの本格点検含む)								
26-8-26	K1エリアC/D群 (測定・確認用設備 B群に移送)		約1,900m ³	無	0.35~0.50 ※3	19万ベクレル/リットル ※4	1.5兆ベクレル	2~3月 (7,800m ³)
	G4南エリアC群 (測定・確認用設備 B群に移送)		約5,900m ³					

➡ 2026年度放出トリチウム総量：約 **11兆**ベクレル

※1 管理番号は年度-年度毎の放出回数-通算放出回数の順で数を並べたもの。「26-1-19」は26年度第1回放出かつ通算第19回放出を表す。

※2 移送量 (実績値) の増減により、移送元タンクの移送順序は変わらないが、放出回は前倒しもしくは後ろ倒しとなる可能性あり。

※3 ALPSで処理し、タンク貯留後に測定した、主要7核種 (Cs-134, Cs-137, Sr-90, I-129, Co-60, Sb-125, Ru-106) の分析値から算出した告示濃度比にC-14の最大値 (0.11) または分析値およびその他核種の合計を0.3と推定したものを加えた、保守的な値。H1東-A, B, C、H2-Bについては主要7核種の分析値から算出した告示濃度比に、C-14の最大値 (0.11) または分析値、およびその他核種の分析値 (タンク群毎に個々のタンクから採水し、それらを混合した試料を分析した値) を加えた値。

※4 タンク群平均、2026年4月1日時点までの減衰を考慮した評価値

- 当社は、2023年8月の放出開始以降、下図に示す枠内の14地点で、迅速に海水中のトリチウム濃度を確認するためのモニタリング（検出限界値10ベクレル/ℓ程度）を実施しております。なお、「放出停止判断レベル（図中記載）」を超えた場合には、海洋への放出を停止します。

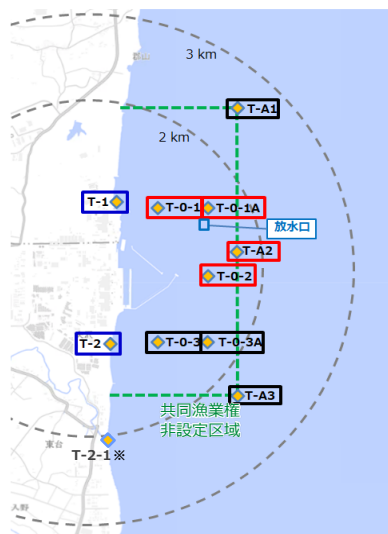


図1 試料採取地点 発電所から3km以内（放水口付近）

□ □ □: 迅速に結果を得るモニタリング対象地点（10地点）

指標（放出停止判断レベル）700ベクレル/ℓ

※ T-2で安全が確保出来ない場合の代替地点

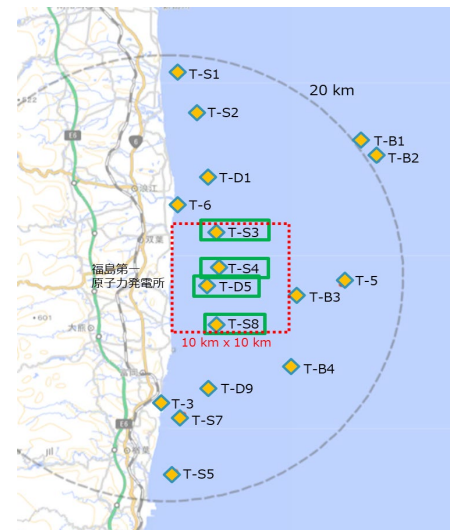


図2 試料採取地点 発電所正面の10km四方内

□: 迅速に結果を得るモニタリング対象地点（4地点）

指標（放出停止判断レベル）30ベクレル/ℓ

	【図1】 発電所から3km以内（放水口付近）		【図2】 発電所正面の10km四方内 4地点 □
	放水口周辺4地点 □	その他6地点 □ □	
放出期間中および 放出終了日から1週間	毎日※1	週2回※2	T-D5:週1回 T-S3,T-S4,T-S8 : 月1回
放出停止期間中 (放出終了日から1週間を除く)	週1回※2	月1回※2	

※1 放出期間中に荒天のため連続して2日間欠測し、翌日（3日目）も欠測が予測される場合には、3日目はT-1、T-2の迅速に結果を得る測定を行う。

※2 2023年8月の放出開始以降、毎日モニタリングを実施してきましたが、放出中の実績等を踏まえ、2023年12月26日からモニタリング計画を変更した。

[\(2023年12月25日公表\)](#)